

小学校第5学年 国語科 学習指導案

期 日 平成28年10月7日(金) 第2校時
場 所 八代市立金剛小学校 5年1組教室
指導者 教諭 熊 智美

1 単元名

考えを明確にして話し合い、提案する文章を書こう「明日をつくるわたしたち」(光村図書)

2 単元について

(1) 単元観

本単元は、「話すこと・聞くこと」と「書くこと」の複合単元である。小学校国語科学習指導要領「話すこと・聞くこと」の目標「目的や意図に応じ、考えたことや伝えたいことなどについて、的確に話す能力、相手の意図をつかみながら聞く能力、計画的に話し合う能力を身に付けさせるとともに、適切に話したり聞いたりしようとする態度を育てる。」を受け、よりよいくらしのために自分たちにできることやしたいことを考え、自分の考えを明確にした上で、グループで計画的、協力的に話し合うことを一つのねらいとしている。また、「書くこと」の目標「目的や意図に応じ、考えたことなどを文章全体の構成の効果を考えながら文章に書く能力を身に付けさせるとともに、適切に書こうとする態度を育てる。」を受け、グループで話し合い、考えたことが伝わるように工夫して「提案書」を書くことを、もう一つのねらいとしている。計画的、協力的に話し合うためには、個々の主張をしっかりと聞き合い、認め合いながらも、複数の意見を比較検討し、評価し、一定時間内にグループとしての結論を導き出すことが求められる。また、「提案書」を書くという言語活動では、自分たちの考えが伝わるように事実と意見を区別して書くこと、さらに、読み手を納得させるための提案理由や具体的な解決策、その効果についても内容や書き方を工夫して書く力をつけることが求められる。そして、書き方を理解した上で、全体としてまとまりのある提案書を、グループで協力して完成させることが大切である。

これらのことから、本単元において、一人一人の考えを生かした質の高い話し合いや提案ができるかについて学習することは、これからの社会に求められる資質・能力として設定した「つながり合う力」の獲得にもつながり、本校の学校教育目標の「育ち合い、成長し合う集団の育成」及び目指す児童像の「自ら学び、考え、工夫する」の実現につながるものであると捉える。

(2) 系統観

第5学年(5月)	第5年(7月)	第5年(9月) 本時	第6学年(9月)
「きいて、きいて、 きいてみよう」	「次への一歩一活 動報告書」	「明日をつくるわた したち」	「未来がよりよく あるために」
(「話す・聞く」 ア、イ、エ)	(「書く」 イ、ウ、オ、カ)	(「話す・聞く」 ア、オ 「書く」 ア、イ、ウ、カ)	(「話す・聞く」 オ 「書く」 ア、イ、エ)

(3) 児童観

- 熊本県学力調査の結果から、「国語への関心・意欲・態度」、「話す・聞く能力」については県平均を上回っているものの、「書く能力」については、やや下回っており、特に「自分の考えが明確になるような見出しを書くこと」の定着率が73.2%と、県平均より10%近く低かった。
- 「これからの社会に求められる資質・能力」について、三分の二以上の児童は、「授業の中で、先生や友達に質問されたりアドバイスされたりすることによって、自分の考えが広がったり深まったりしている」と考えており、友達とつながることの大切さについて実感することができている。また、「新しい問題や課題に出会ったときに、それを解いたり、解決したりしてみたい」と考える児童が多く見られ、主体的に学ぼうとする児童の割合は高いと言える。
- 課題を解決するとき別の方法はないか思考したり、複数の方法を考え、その中から選択したりすることについては、約半数の児童があまりできていないと考えており、課題が見られる。

○前単元の「次への一歩―活動報告書」では、教科書の例を参考にしてすべてのグループが報告書を仕上げる事ができたが、「推敲」の時間を活かしてよりよい文章に練り上げるまでには至っていない。

(4) 指導観

- 「学校や地域での生活の中から、その問題点を発見し、具体的な解決策を考え、提案書を書いて運営委員会に提出する」という目的意識を明確にして、話し合いや書く活動に取り組ませることによって、主体的な学びとなるようにする。
- グループで活動する時間が主になるので、個々の学びを実感できるように、毎時間のふり返りを確実にを行うようにする。その際、その日の学習内容について振り返るだけでなく、「つながり合う力」の要素（「自分の意見を言う力」「友達の意見を聞く力」「友達と助け合う力」）についても自己評価を行い、資質・能力や自分の学びの深まりについて意識させるようにする。

<p>学びを引き出す 学習活動を生む 「問い」の工夫 (言語活動の充実)</p>	<p>①地域の問題を発見し、提案書によって学校生活の改善を図るという課題の解決を通して、「つながり合う力」の育成を目指すようにする。 ②毎時間、例示した中から選んだり、賛成か反対かという判断を促したりすることによって課題を焦点化し、協働的な解決に向かう学習になるようにする。</p>
<p>学びを振り返る 思考過程の可視化と 学びの振り返り</p>	<p>③児童の最初の考えと他者との協議後の考えを比較できるようなワークシート等を用い、考えの変容が見取れるようにする。 ④振り返りの場面において、学習内容だけでなく、資質・能力についての自己評価も行うことで、「つながり合う力」を意識できるようにする。</p>
<p>学びを支える 学びのUD化とICT の活用及び支持的風土</p>	<p>⑤児童が学習内容だけでなく、学習活動の方法まで把握できるよう、相談しやすい雰囲気づくりに努めたり、ICT活用により共有化を図ったりすることで、日常的にも学級内での「つながる力」の育成に努める。</p>

3 単元の目標と評価規準（参考：国立教育政策研究所作成「評価規準の設定例」）

<p>単元の目標</p>	<p>身の回りの問題について調べたことをもとに、自分の考えを明確にして話し合い、その解決のための提案書を書くことができる。</p>		
<p>国語への 関心・意欲・態度</p>	<p>話す・聞く能力</p>	<p>書く能力</p>	<p>言語についての 知識・理解・技能</p>
<p>①身の回りの問題について調べ、解決のための提案書を書くということに関心を持ち、問題に関する情報を集めたり、自分の考えをまとめたらしよとしてしている。</p>	<p>①収集した知識や情報に関連づけて話し合っている。(ア) ②話題に対する自他の考え方・感じ方の違いを踏まえ、計画的に話し合っている。(オ)</p>	<p>①題材に関する情報収集の方法を知り、幾つかの方法を用いて情報を集めている。(ア) ②提案書の構成を明確にして、書いている。(イ) ③事実と感想、意見を区別して、目的や意図に応じて提案書を書いている。(ウ) ④書いたものを読み合い、よりよくなるよう推敲している。(オ)</p>	<p>①言葉から受ける感じや、言葉の使い方について関心を持ち、説得力が増すように表現を工夫している。(イ(カ))</p>

4 指導・評価の計画（14時間取扱い 本時11/14）

単元を貫く問い：学校や地域をよりよくするための提案書をまとめ、運営委員会に提案しよう。

次	時	学習活動	評価及び研究の視点
一	1 2 3	1 身の回りにある問題について考え、話し合う。 2 学習課題を設定し、学習計画を立てる。 3 自分の取り上げたい問題について情報を集めて、自分の考えをまとめる。	【関心・意欲・態度】①：ワークシート 【学びを引き出す】 ①提案書を書いて、学校をよりよくしようとする目的・相手意識を明確にする 【書く能力】①：ノート、ワークシート
二	4 5 6 7	4 提案する問題について、グループで話し合う。 5 決まった問題について、さらに資料を集め、提案書に書く内容を整理する。	【話す・聞く能力】①②：ワークシート 【学びを振り返る】 ③学習前・後半による考えを比較することで、自分の変容に気付けるようにする。 ④二項軸を用いたワークシートを活用し、考えた観点によって視覚化できるようにする。
三	8 9 12	6 提案書を書く。 (1) 書き方を確認し構成メモを作る。 (2) 分担し、記述する。 (3) 推敲する。【本時】 (4) 清書する。	【書く能力】①②：ワークシート及び提案書 【学びを引き出す】 ②比較できる例を示すことで、課題を焦点化する。 【学びを振り返る】 ④付箋を使ったり、ワークシートと同様に板書をまとめたりすることで考えを視覚化する。
四	13 14	7 提案書を読み合う。 8 提案する。	【書く能力】③：提案書 【学びを引き出す】 ①提案したことが実現することでどのような効果があるのかを示し、よりよい暮らしのためにできることを更に考える。

5 本時の学習（11 / 14 時間取扱い）

(1) 目標

提案書の下書きを「内容の整合性と具体性があるか」という視点でアドバイスし合い、推敲することができる。

(2) 展開

過程	学 習 活 動	指導上の留意点及び評価	備考
導入 2分	1 本時の目標（めあて）を確認する。 学習目標（めあて） 提案書を推敲して、よりよくしよう。	○学習計画を見ながら前時の学習をふり返り、本時の学習内容についての見通しを持たせるようにする。	学習計画表
展開 40分	2 [課題]について話し合う。 [課題] 今日一番のポイントを見付け、推敲に生かそう。		
(8)	(1)教科書P109の3～4行目を読み、推敲するの観点を確かめる。	○「読む人に理解してもらえるように」、「説得力が増すように」を踏まえ、提案内容について具体的に（くわしく）書かれているか、またその効果についてつながりを考えて書かれているかを確かめることが大切であることを押さえる。 【視点1】学びを引き出す 比較できる例を示すことで課題を焦点化する。	拡大した例文
(7)	(2)提案書をペアで交換し読み合い、推敲の観点に沿って修正が必要なところを考えて、付箋紙に書く。 【言語活動】（設定の意図） ●友だちの提案書を読み手の立場に立って考え、読むことで「読む人に理解してもらえるように」「説得力が増すように」という学習の目標について、自分たちの提案書の推敲に活かすことができるようにする。	徹底指導 （ポイント） 推敲の観点を話し合って確認し、共通理解を図ることで、観点に沿って推敲が進められるようにする。 ○推敲のポイントを書いたチェック表を準備し、必要に応じて活用できるようにしておく。 ○提案書はグループの人数分コピーしておき、一人一人がじっくり読み、修正が必要な箇所を考えることができるようにする。	付箋紙 チェック表 提案書の下書き
(8)	(3)読んでみて、修正した方がよいと思ったところを伝え合う。	能動型学習 （ポイント） 友だちのアドバイスや、友だちの提案書を読んで考えたことを活かして、よりよい提案書にできるように、グループで推敲を行う。	
(15)	(4)アドバイスを参考にして、元の班で提案書を推敲する。	評価：書く能力（提案書の下書き・観察） B基準 友だちのアドバイスを参考にして、推敲の観点に沿って提案書を修正している。 A基準 B基準に加え、より説得力を増すために、解決策の効果についても書き方を工夫している。 〈B基準に達していない児童への手立て〉 ○推敲が必要と思われるところを事前に確認しておき、個別に支援を行う。 ○本時の学習や単元の目標についての振り返りを書く。	
整理 5分	3 学習したことを振り返る。	○推敲の様子について気づいたことを紹介し、前單元からの伸びを感じられるようにする。	振り返りカード

